

日時：令和7年1月21日

開会 午後4時10分

○大阪市経済戦略局（田口課長） それでは、定刻になりましたので、令和6年度大阪市イノベーション促進評議会を開催します。

本日の評議会は、大阪イノベーションハブの会場とインターネットを通じて相互に映像及び音声の送受信などを行う方法、いわゆるウェブ会議をつなぐ形式にて進行するとともに、ユーチューブにより同時配信しております。

まず初めに、各委員と映像及び音声の相互通信に問題がないかを確認させていただきたいと思います。

岡委員、いかがでしょうか。

○岡委員 はい、大丈夫です。よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（田口課長） ありがとうございます。

続きまして、フォーリー委員、いかがでしょうか。

○フォーリー委員 はい、大丈夫です。ありがとうございます。

○大阪市経済戦略局（田口課長） ありがとうございます。

続きまして、山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員 はい、クリアです。大丈夫です。よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（田口課長） ありがとうございます。配信状況の確認は、以上となります。

本評議会は参考資料2の執行機関の附属機関に関する条例に基づき設置されており、グローバルイノベーションの創出の支援に関する事項の調査審議などをお願いするものです。どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、開会に当たりまして、大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の米倉から一言ご挨拶申し上げます。

○大阪市経済戦略局（米倉部長） すみません。座ったままで失礼いたします。大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の米倉でございます。本日は北岡先生はじめ、委員の皆様にはお忙しい中、当会議にご出席賜りまして本当にありがとうございます。

この評議会でございますけれども、先ほどもご案内ありましたように、大阪市のイノベーション創出支援施策を実効あるものとして、大阪市の条例に基づいて設置されている会議体でございます。委員の皆様から専門的な知見に基づく評価や助言をいただくことを目的に

開催させていただいております。

本日、この後私どもからご説明させていただきますけれども、この間の主な取組状況ですとか、今後の取組などについて、ご報告、ご説明をさせていただきます。事業実施等にかかるご助言、それからご意見賜りたいというふうに考えております。

また、本日は大阪産業局も一緒に参加させていただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

非常に限られた時間でございますけれども、委員の皆様から各種ご意見賜りまして、万博を契機とした支援の強化でありますとか、大阪のエコシステム、これらの一層の充実を図っていければと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（田口課長） それでは、これより、北岡委員長に議事進行をお願いいたします。

北岡委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

○北岡委員長 ありがとうございます。北岡です。よろしくお願いいたします。

皆さん、こんにち。今日は久しぶりですけども、大阪市の、このイノベーション促進に対して、ぜひ皆さんで色々な良い意見を述べさせていただいて、盛り上げていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、資料1枚目の次第をご覧ください。本日は、大阪市のグローバルイノベーション創出支援事業などに関わる最近の主な取組について、まず、ご紹介いただきたいと思います。

昨年のときに各委員から述べさせていただいた意見を反映いただいておりますので、今後の取組について2つ目のポツで議論をさせていただきたいと考えております。

では、1つ目の議題になりますところにつきまして、事務局よりご説明いただいた後、各委員からご意見や感想をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

その後、先ほど言いました2つ目の議題について、また、事務局より説明をいただきまして、皆様よりご意見、ご感想をいただきたいと思います。ぜひ皆さん、いろいろ良いアイデアをいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、議題につきまして事務局から説明いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（栗村課長代理） それでは、令和6年度大阪市イノベーション促進評議会の資料に基づきまして説明させていただきます。私、大阪市経済戦略局イノベーショ

ン課の課長代理の葉村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

こちらの資料ですけれども、基本的には大阪市の取組が主になりますが、大阪府下全域であったり、京阪神地域連携事業の取組についても併せて紹介させていただきます。

それでは、資料の３ページをご覧くださいでしょうか。こちら、大阪におけるスタートアップ支援の全体像という形で記載させていただいております。それぞれスタートアップのステージに沿った支援を、このようにプログラムとして実施させていただいております。

また、このようなプログラムとともに、個社支援も行っておりまして、よりきめ細やかな支援を実施しているところです。イベントについては年２００回以上実施する見込みで、また、個社支援等、そういった企業等との面談は、この１２月までで、実績で３３３件という形になっております。

この中でいくつかＯＩＨの取組について、もう少し具体的な取組例をご説明させていただきます。４ページをご覧ください。

ピッチイベントということで、まず、ＶＣ ＭＥＥＴＵＰ、また、うめきたピッチ等を毎月行わせていただいております。大阪のスタートアップとＶＣや既存企業等との接点や機会を拡大するために、交互の月になりますけれども、それぞれ行っております。

２つ目はアクセラレーションプログラムということで、ＯＳＡＰという形でさせていただいております。アーリー期を対象に、約５か月間、このプログラムがなされていて、今年度につきましては参加企業数が１２社ということになっております。

また、重点事業といたしまして、カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業をさせていただいております。これは２０２２年度から始まった事業ですけれども、カーボンニュートラルの分野を中心に大学などの有望な新技術を発掘、スピード感を持ってビジネス化支援を進めていって、万博での活躍というのを期待されているようなスタートアップを輩出していくということです。これまでの取組といたしましては、まず、専門人材による有望なスタートアップの発掘、また、パビリオン出展企業参加のもとで、ワークショップなどで連携提案の策定支援を行ってきましたし、また、最後になりますけれども、パビリオンでの魅力的な展示になるような具体的な支援も行ってきたところでございます。

また、３ページには書かせていただいておりますけれども、「起動」という産業局のプログラムもあります。このシード期からレイター期にかけての「起動」というところが、この全体像の中に書かせていただいておりますけれども、最大１，０００万円の事業資金と専門家による６か月間のハンズオン支援ということで、これまで各期１０社の支援を、１期、２

期という形でさせていただいてます。今ちょうど3期の募集が終わったところで審査しておりますが、3期についても、今、プログラムが進行しているところです。このような様々な支援策を通して、大阪全体のスタートアップの支援を行っているところでございます。

続きまして、5ページになります。5ページは、特に、海外に関連した内容を記載させていただいております。一番上が海外ワークショップの実施ということで、若い人たち、起業に関心のある若い人たちをオーストラリア・メルボルンに、2024年2月に派遣しまして、現地でのビジネス現場の視察とか、また、現地で活躍する海外のスタートアップなどを見ていただいて、企業マインドの醸成とスキルの向上を図っていただいております。今年度はアメリカ・ボストンに派遣予定ということで、今、進めさせていただいているところです。

また、大阪の有望なスタートアップの海外への発信ということで、シンガポールで開催されているスタートアップイベント「Switch」で、大阪のスタートアップ2社を出展しているところでございます。また、併せて、大阪コンソーシアム各会員に、その取組等を発信しているところです。

そして、3点目になりますけれども、ACTUATORとの連携です。もともとメルボルンを本拠地にしておられるアクセラレーターですけれども、2024年9月、大阪市内のJAM BASEに、日本拠点を開設された非営利アクセラレーター、MEDTECH ACTUATORと連携して、アクセラレーションプログラムを実施しております。医療・ヘルスケア分野の企業家や研究者などを対象に、グローバルな展開を見据えて事業化することに焦点を当てたものです。集中講義、またピッチ予選にて参加企業を選抜し、シンガポールで実施するプログラムに派遣させていただきました。

以上が、このOIHのプログラムという意味での取組になってきます。

続きまして、6ページになります。こちらは大きなイベントについて記載させていただいております。国際イノベーション会議Hack Osaka 2024を、昨年11月26日に実施させていただきました。1,183人、リアル、オンライン合わせてですが、たくさんの方に参加していただきました。

主な内容といたしましては、セッションで、市長とMEDTECH ACTUATOR創業者との対談等を行っていただいたり、また、展示会ということで、この一番右側の写真になりますけれども、国内外スタートアップ企業77社による出展であったり、また、その会場でピッチやSpeed Datingなどを実施させていただいたところです。また、その他の主なコンテンツとして、GET IN THE RING、オランダ発のスタートア

ップピッチの日本大会の予選等を行わせていただきました。このようにして国内外のスタートアップ・エコシステムのプレーヤーが大阪に集結して大阪の魅力を世界へ発信ということで、今年度は会場を拡大して行わせていただきました。

続きまして、市長とスタートアップ企業との意見交換会ということで、初めての取組ですが、スタートアップの盛り上がりを図って、大阪のスタートアップ支援のブランディングにつなげるために、市長とスタートアップ企業との意見交換会を実施いたしました。昨年3月28日ですけれども、ご覧の参加スタートアップ4社と市長の意見交換が活発に行われたところです。

続きまして、7ページとなります。7ページはスタートアップ・エコシステム拠点都市の取組という形になっております。令和2年に、京阪神がグローバル拠点都市として指定され、国の支援を受けながら、産官学金が連携してエコシステムを形成しながら、スタートアップの支援を実施しております。

主な取組内容ですが、まずは各種国内イベントへの出展ということで、東京で行われたSusHi Tech、また、京都で行われたIVS、そしてHack Osakaなどで、京阪神のエコシステムを発信したところでございます。このように積極的な発信を行うことによって知名度を上げていくという狙いもございます。また、2番目の取組ですけれども、このスタートアップ・エコシステム拠点都市の一環として大学が集まりまして、関西スタートアップアカデミア・コアリクション、KSACという取組がございます。関西地域の27の大学を含む産官学金80機関で構成されるプラットフォームですけれども、大学のシーズの実用化に向けた環境創出というのをめざしております。また、文科省のプログラムを活用しながら、この大学発スタートアップを促進しているところです。また、企業活動支援ということでGAPファンド、資金面での支援ということもしておりまして、また、その他人材面での支援、また企業環境の整備ということで、地域のエコシステム形成に取り組んでおります。

なお、GAPファンドでは、これまで91件を支援しているところです。その事務局をOIHで行わせていただいております。

このような取組をさせていただいておりますけれども、次期拠点都市制度に向けた取組も行っております。内閣府拠点都市報告会ということで、昨年7月30日には、毎年内閣府で主催されますけれども、今年度は大阪で初開催をさせていただきました。各スタートアップ・エコシステム拠点都市の進捗状況、また、大阪における取組について国・関係者を含む

参加者に対してPRさせていただいたところです。また、Startup City Project Networkということで、これも同日から始まったものですが、次の拠点都市、拠点都市の未来について各拠点都市の担当者が議論するイベントやワークショップに随時参加しているところでございます。

なお、スタートアップ・エコシステム拠点都市の仕組みにつきましては、17ページのほうに簡単に記載をさせていただいておりますので、ご参照いただければと思います。

引き続きまして、産学官連携の一環ということで大学の技術シーズの事業化支援ということでございます。大学の持つ研究・技術シーズをもとに産学連携の研究開発に係る費用の一部を補助する制度がございます。概要につきましてはご覧のとおりですが、これまで119件、27大学に交付し18件が実用化済みということです。以下、主な成果について書かせていただいております。

このような取組の結果、どうなっているのかということが9ページの数字で見る成果ということになります。まず、大阪市イノベーション創出促進事業の目標ということで、これは大阪イノベーションハブが支援しているところを対象といたしました目標値になりますけれども、新たなプロジェクトの創出推進支援件数は412件、これ2021から2025年度までですが、412件というところを261件の現時点での実績ということになっております。また、資金調達額につきましても400億円以上ということで、こちらも5年間の計画がございます。こちらの計画につきましては、当初もともと2021年に設定した際には、80億円という目標がありましたけれども、資金調達が進んでいる中で上方修正をさせていただいておりまして、今年度につきましては、この5年間で400億円以上を目指そうということになっております。なお、昨年度末で既に315億円の達成状況ということになっております。

下部が、スタートアップエコシステム・コンソーシアムの目標ということになります。スタートアップの創出につきましては目標を達成しております。また、5億円以上の調達のスタートアップ件数であったり、外国人起業家の誘致件数、スタートアップVISAの活用数というところでは目標値を上回っている、あるいは目標達成見込みという方向になっております。万博を契機に活躍するスタートアップの輩出件数につきましては、現在、万博に向けた準備を行っておりますので、50社を輩出できるように、現在、頑張っているところでございます。なお、ユニコーンにつきましては3社ということですが、現段階ではゼロ社という形になっております。

以上が、数字で見る成果ということになります。こうした取組、また、成果のもとで具体的にどんなスタートアップが出てきているのかというところが10ページ、あるいは11ページに記載をさせていただいているところです。

10ページで、EVAセラピューティクスというところですが、こちらにつきましてはOIHのプログラムを活用いただいております。OSAPという、先ほどご説明をさせていただきましたが、第16期を受けていただきまして、また、昨年7月にヘクノス・アワードを受賞していただいておりますけれども、腸から酸素を取り込むということで、肺でなかなか呼吸ができない場合に代わる手法として、こういった腸からの酸素という技術を活用して医療機器の開発に取り組んでおられるところです。

下のほうが、リバスキュラーバイオ株式会社というところです。こちらは大学発スタートアップということになります。血管内皮幹細胞というのを利用した再生医療のスタートアップでございますけれども、第2期の起動に採択されまして、また、2024年にはJETROのグローバル・スタートアップ・アクセラレーションにも採択されたところでございます。このように、医療系のスタートアップの支援もさせていただいております。

続きまして、11ページになります。こちらからはビジネス系ということになります。こちらでもOIHのプログラムを活用ということで、株式会社ABABAさんです。これは就活の過程で評価されるスカウト型評価サービスというのをさせていただいております。第14期のOSAPに参加いただいております。そして2024年5月には日本経済団体連合会、経団連に入会されたという形で活躍されているところでございます。

続きまして、IPOの事例ということになります。BABY JOBさんです。こちらは2012年設立されたところですが、保育施設向けの紙おむつ・おしりふきのサブスクサービスをされているところでございます。様々なOIHのプログラム等を受けていただいておりますけれども、昨年12月に東京証券取引所のTOKYO PRO Marketにて上場されたということで、さらなる成長が見込まれるところです。

以上が、注目のスタートアップとして紹介させていただきました。

最後、12ページになりますけれども、こちらでは前回評議会2023年度における主なご意見について掲載をさせていただいております。大学発の取組をもっと進めることであったり、また、ユニコーン創出などスタートアップの成長に向けた支援を強化していくこと、また、情報発信の強化について、今見ていただいているご意見を賜ったところです。こうした評議会の皆様からいただいたご意見や、スタートアップの関係者からのご意見を踏まえて、

今後の中長期的な方向性を検討していっているところでございます。

以上で、今年度の取組についてご説明させていただきました。

○北岡委員長     ご説明ありがとうございました。

それでは、1つ目の議題であります、大阪市グローバルイノベーション創出事業に関わる最近の主な取組を、今、ご紹介いただきましたが、その内容につきまして、ご意見、ご質問を各委員から受けたいと思います。委員の中でご意見、ご質問ある方、挙手なりミュート解除でお願いいたします。

お願いします。山本さん。

○山本委員     私から、よろしくをお願いいたします。

ご説明ありがとうございました。すごくいろいろな取組が行われている様子と活発なところが見えてきてすごく良かったなと思いますし、色々な活動の中で数多く創出するということでシード期とか、アーリー期もすごく手厚くされてるなというのもすばらしいと思いますし、K S A Cのところがどんどん進んでいっているのも素晴らしく、そのシードが事業化される場所に対してのご支援もすごい良いと思って、いろいろと良いところがたくさんあるなと思って、伺っておりました。G A Pファンドに関してもいろいろと取り組みされていて、91件というのも、やはり良い結果なのではないかなと思って、伺っておりました。

質問としては、そういったところ、特にグローバルに関してのところでは質問なんですけれども、O I Hのプログラムも良いなと思っておりまして、海外のワークショップであったり、S w i t c hとかですね。A C T U A T O Rさんのプログラムもあったと思いますけど、その結果というか、アウトカムはどの辺りをめざしていच्छやって、どういった結果につながっているかというようなことがありましたら教えていただきたいと思います次第です。

○大阪産業局（中村フェロー）     大阪産業局の中村です。ありがとうございます。

グローバルな活動についていろいろと行わせていただいておりますけども、大阪イノベーションハブでのご支援を通じまして、世界に挑戦していく、急成長するようなスタートアップを創出、成長支援をしていくところは、大きな最終目標なのかなと考えております。

そういったために、各海外関係のご支援につきましても、本当に起業前のところや、マインド醸成のところから、一定プロダクトなり、サービスができたところでの海外展示会での出展のサポートなどもさせていただいているところとなります。

現在、具体的な成果というのは、まだまだ大変少ないところではありますけども、特に、海外展示会での出展を通じて、現地の企業とのマッチングなどを、我々だけではなくてJ E



TROさんとも連携させていただきながら実施しているところとなります。実際、出展後・海外渡航後のフォローアップも数か月単位で企業と面談させていただいておりますので、その時々でのニーズをきちんとキャッチアップしながら、次のご支援にも繋げていきたいと考えているところです。

○山本委員      ありがとうございます。

今回例えばS w i t c hに出展された2社様、両方ともかなりディープテックな企業だと思うので、彼らのステージを考えて、そこから伸びていくときは、いわゆる普通のスタートアップ、一シリコンバレー式の、というよりはパートナーを探して、というところになると思うのですが、色々なパートナーがいて、その中間パートナーと最終的に、なのか、エンドのパートナーとなるのか、両方あると思うので、そういったところも渡航前からいろいろとご準備されていくと、結果が出やすいのかなと思いましたので、ありがとうございます。

○大阪産業局（中村フェロー）      ありがとうございます。

○北岡委員長      少しフォローしますと、T h i n k e rもE X－F u s i o nも大阪大学発ベンチャーなんですけど、正直、シンガポールに行かせていただいて、T h i n k e rは現地のいろんな生産ラインにどう入っていくのかということで、今、世の中のトレンドである省人化というところに対して、実際ビジネスサイドで動き出そうとしてますし、E X－F u s i o nに関しては核融合ということで、実現するのは多分かなり先だと思うんですけど、ある意味シンガポールもコロナ禍で、エネルギー事情についてすごく大変だったと聞いておりまして、そういう中において再生可能エネルギー、そして、その次につながる核融合ということで、非常に投資家目線で見ても非常に注目されてるところですので、そういった意味ではやっぱりシリコンバレーとシンガポールというのは一つ、連携にあたって非常にいい国・場所であるなというのは感じております。山本委員のおっしゃるとおり、しっかりパートナー探しを進めるというのが重要で、それが少しずつ実を結びつつあるのかなと感じています。

○山本委員      ご説明ありがとうございます。

シンガポールもいろいろな工場を小さい土地の中に世界中から引っ張ってきてというところと、エネルギーや食に関しての危機感というか、投資意欲というのは非常に高く、良いエリアだと思いますので、良い結果が出るといいですね。

○大阪市経済戦略局（田口課長）      大阪市イノベーション課長の田口と申します。

先ほどグローバルの質問のところで、アウトカムはどこを目指しているのかという話があ

ったかと思いますが、1点補足だけさせていただきます。

我々大阪市としましては、スタートアップがどんどん生まれて、大きく育つような、そういったエコシステムを作っていこうという目標を掲げております。ひいては大阪経済の活性化を図るということで考えているんですけども、その一つの目安として、やはりユニコーンが生まれるようなエコシステム、こういったものを作りたいと思っております、そういった意味で、グローバルの取組などを進めております。つきましては、細かいアウトカムはないんですが、さきほどのグローバルの質問に対するアウトカムでいえば、ユニコーンを作っていきたい、と考えているところになります。

以上です。

○山本委員     ありがとうございます。ユニコーンを海外で、ということであれば、海外によっていろいろあるとは思いますが、例えば環境に配慮したところに対しての投資というのは、どんどん大きくなっていったりしているところですので、良い企業がうまく成長パートナーを見つけたり、日本ではないところでの株式の上場等があれば比較的早くユニコーンになる可能性もあるのかなと思いますので応援しています。

○大阪市経済戦略局（田口課長）     ありがとうございます。

○北岡委員長     岡さん、フォーリーさん、いかがでしょうか。

○岡委員     では、僕のほうから。

○北岡委員長     では、岡さんからお願いします。

○岡委員     毎回いろいろ出させていただくたびにすごくスキルアップと、内容もすごく良くなっているのではないかと感じています。

今回の報告でありましたように、BABY JOBがTOKYO PROに上場したということも大きなトピックスでした。我々も初期から支援して、株主なので、投資先ということで非常に喜んでおります。

あと、順番に感じたことを言いますと、まず、VC MEETUP・うめきたピッチ、これも僕は初期メンバーで携わらせていただきましたが、どうしてもピッチについて、スタートアップを入れないといけないということでした。もともと僕がやりたかったのは、このVC MEETUPで、VCだけでセミナーや勉強会をして、関西のVCの底上げと、VCの仲間集めをしたいと思っていたのですが、それがなかなか色々な規制があって難しいということで、ピッチをさせてくれということになったので、少しそれが残念かなと思いました。

ただ、この間、VC同士の横のつながりは以前と比べてかなりできてきており、両事業と

も、それなりの効果はあったと思いますので、良かったなと思っていますが、ぜひV CだけのM E E T U Pができればいいかなと思っています。

各種プログラムやアクセラレーションプログラム等は僕も強く関与させていただいており、非常に素晴らしいと思いますし、あとは海外ですね。海外については連携とか、アライアンスはいいんですけど、昨今、N A S D A Qに上場したいというスタートアップが増えておりまして、昨日も東京の有力V Cといろいろ打合せをしていたのですが、最近、特にN A S D A Qの上場が行いやすいというか、そういった考えのコンサルタントさんが増えたようです。詳しいデータはまだ僕も調べていないのですが、十数社がN A S D A Qに最近上場していて、うまくいっているのが数社程度で、それ以外は何かトラブルとか、退場されているということも聞いています。日本企業がN A S D A Qに上場するのは良いと思いますし、語弊はありますけれども、「簡単」かもしれませんが、その後成長するリスクが非常にあるように感じますので、その辺りはO I Hさんの取組の中でどこまでされるのかは分かりませんが、もし、そういうスタートアップがいた場合、ある程度ガイドラインというか、その辺りのリスクのマネジメントも支援したほうがいいのではないのかなと感じています。

H a c k O s a k aにつきましても、僕も今回も参加させていただいています。これは非常に盛り上がっていますし、我々V CとのM E E T U Pも参加をさせていただいてまして、非常に盛況で効果もあったのではないかなと感じました。

市長との意見交換会は知らなかったのですが、こういうことも地方自治体の取組ということで、今後も活発にされたほうがいいのではないかなと思います。

各種国内イベントへの出展についても、こちらに書かれているもの全部、僕も参加しておりますので、非常に盛り上がっていますし、こういったことでいろいろなP Rを行うということはすごく大事なので、今後も続けていってほしいなと思います。

K S A Cは、前回も言いましたようにすごく素晴らしい実績も上げられてるので、今後も、G A Pファンドもそうですが、拡大していただきたいなと思います。

あと、イノベーション創出支援補助金についても採択も上手くされてるようですし、実際、成果も出ているのでいいのではないかなと感じます。

ただ、先ほどもありましたけれど、ユニコーンですね。ユニコーンがゼロということで、これ、非常にハードルは高いと思うのですが、我々V Cもよく議論はするのですが、コンソーシアムとして、このユニコーンが今ゼロということについて、今後どういうふうに軌道修正、もしくは何かてこ入れとか、お考えとかがあればぜひ教えていただいて、それに対して

いろいろご意見させてもらえればなと思いました。

あと、注目スタートアップも阪大の大学発ベンチャーが活躍されていますし、また、OIHのプログラムを使われたところも、非常に目覚ましく成長されているので、これも素晴らしいことだなと思いました。

今後、万博がありますので、ここでスタートアップの情報をどれだけ発信するのか、というところですが、昨日も東京のVCと打合せをしましたが、あまり東京には大阪万博のスタートアップについての情報がほとんどないというのか、知らないようなので、これについてはもう少し情報発信をされたほうがいいのではないかなと感じました。

長くなりましたけど、僕の感想は以上になります。

○北岡委員長　今の質問をあえて拾うとすると、ユニコーンを育てることに関して、てこ入れとして何か今考えていることはありますかということと、万博、恐らく、今いろいろなところで広報を開始されていると思うのですが、その辺りについて、今後こういう広報を進めていく、という考えがあれば、ご回答をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○岡委員　お願いします。

○大阪市経済戦略局（田口課長）　ユニコーンについて、詳細については、また産業局さんから説明していただこうかなと思っておりますが、一応、大阪市としては、ユニコーンを作っていくためには、地道なことをやっていかなければいけないとは思っております。特に可能性の高い、大学発スタートアップや、あとは万博に出展する企業さんも高い技術を持っているところが多いと思いますので、そういったところを重点的に支援していくことが大事かなと考えております。

PRにつきましては、すみません。我々も課題として考えておりまして、引き続き、市長にもお願いしながらトッププロモーションをしたり、そういったことを進めていきたいと考えております。

もし何かあれば。

○大阪産業局（中村フェロー）　ありがとうございます。

ユニコーンに関しまして、確かにコンソーシアムとしても国のほうへの目標を実際、まだ達成できていない状況です。また、拠点都市に関しましても今年度で一旦終了ということで、次期に今向けて準備しているところとなります。今、田口課長からもお話がありましたように、重点的なところについて、できるだけ大阪・関西として強みとする部分を引き上げていけるような、少し注力する部分がある程度ターゲットを絞って取り組まなければならないと

考えている次第です。

また合わせて、これまでも行ってはいますが、国内、または海外のベンチャーキャピタルであったりとか、CVCとのつながりをより強めながら、こちらのほうにできるだけ関心を持ってもらえるような発信の仕方をしていかなければならないと思っている次第です。現在、海外に向けて、特に発信については今年度から強化しております、いわゆる英語での発信にはなりますけども、よく海外からは日本のスタートアップや、関西のスタートアップのロングリストが見えないとか、どこにいるのかが分からないというお話をよく聞きますので、まず、そういったところをしっかりと発信できるような取組を進めている次第です。

○大阪産業局（松出部長） 大阪産業局の松出でございます。

私は、万博に向けてのPRについて少し補足させていただければと思いますが、我々のほうでも、地元館である大阪ヘルスケアパビリオンに出展するスタートアップのサポートをさせていただいております、万博前に大阪府外でのイベントに行き、出展するスタートアップのPRを実施したり、あと、テレビ局等メディアとの連携を含めて検討したりしているところでございます。そういったところで万博前に露出を増やしていきながら、万博の際に皆様来ていただけるように、今、取組を検討しているところでございます。

以上でございます。

○北岡委員長 ありがとうございます。

ユニコーンに関しては、いろいろ意見があると。私も意見がありますけど、あんまり無理して出過ぎて、結局ユニコーンが小さくなってしまっていて失敗するというよりは、先ほど山本委員からありましたように、着実に世界とつながって、成長していくというほうが、私自身は大阪らしいと思いますので、今、田口さんがおっしゃられたように、かなり見える化してきた、トップ10ぐらいのスタートアップをどのように戦略的に、世界に広げるかというところは、ぜひお願いしたいし、やっぱり、これ僕も知らなかったんですが、市長とか知事がEX-Fusionと会っているということや、具体的にそのEX-Fusionの松尾社長が経団連に入ることによってアピールということで、実際1月に十倉会長が「核融合」というキーワードを出されたということで、私も結構びっくりして、知事、市長がいろいろなスタートアップを支援していくというのは一瞬じゃなくて継続的にしていただけると、スタートアップの経営者もすごく元気が出ると思いますので。

○岡委員 ですね。

○北岡委員長 ぜひ、僕もこの取組はぜひ継続的にやっていただけると、すごくありがた

いなど。、今日初めて見て驚いたので、ぜひお願いできればと思いました。

○岡委員　やはり周りから見たら、大阪のスタートアップへの支援がすごいというのはあまり知られていないし、今回の、この市長の話についてももっともっとアピールされると、また、見る目も変わってくると思います。

あと、追加質問なんですけど、ここで言われているこのユニコーンの定義というのは、時価総額1,000億であって的吗ですか。

○北岡委員長　今、多分1,500億ってなっていますね、大体。

○岡委員　じゃあ、ドル建てでやる。

○北岡委員長　ドル建てですね。

まあ、円が強くなってもらわないといけないのですが。

○岡委員　なるほど。

○大阪市経済戦略局（田口課長）　ユニコーンも、本当にいきなりめざすべきなのか、それとも一個前の段階、候補をもっと増やしていくべきなのか、その辺りは今、次期拠点都市計画も含めて議論しているところでございます。あまり数ありきというか、そういう形になるのもどうなのかなというところもありまして、また、相談させていただきながら検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

あと、市長の横山について、スタートアップのことを非常に大事に考えておりますので、今まで、あまり市長の露出が少なかったところは反省するところなんですけど、今後はもっと出ていただいてPRを、皆様のスタートアップのバックアップができるような形でやっていきたいなと思っております。よろしくお願いします。

○岡委員　ぜひ協会のイベントもあるので、横山市長に登壇していただいて。最初のご挨拶でもいいので。かなりPRになると思うし、そういう場をうまく活用するというのも、イメージ戦略というのか、メディア戦略というのか、そのような観点でプラスになると思いますので、ぜひご検討ください。

○大阪市経済戦略局（田口課長）　ありがとうございます。

○北岡委員長　フォーリー委員、お願いします。

○フォーリー委員　かなりいろいろなコメントが出てしまいましたが、様々な活動が展開されているということは非常に見てとれて、それはすばらしいと思った一方で、9ページ目の達成状況で、数としては達成していますが、複数年度で進めてきているなかで、スタートアップの質ですとか、内容の変化というのは何かなかったのかなと思っています。特に、昨

年などはなかなか追加の投資がV Cから受けられないとか、それからどうしてもレイターとか、ミドル等のスタートアップに投資が集中するとか、そういったこともあった中で、死に体になっているところというのも実は出てきているのではないかと、そういった現状をコンソーシアムでも把握をされているのかなというところが少し気になりました。

あと、五月雨にお話しをさせていただくと、MEDTECHについて、すごくいい取り組みだと思いましたが、ちょうど今後のスタートアップ投資にも一つ考えていくべきところかなと思っておりるのが、大阪の開発状況ですよね。キタの開発はグングリーンで一旦、終わりましたと、ただ今回、中之島が医療というところを中心にしていくとか、万博の後にI Rが来る。それに絡めて地下鉄が延伸したりするとか、そういった大阪での開発状況で、スタートアップが、どのエリアに拠点を持っていくのかというところが変わっていったりするのでは。もしかすると大阪市の中でも、MEDTECHや関係するスタートアップというのは、もしかしたら中之島に集積することで、何か新しいムーブメントを起こせるとか、そういったことも考えられないかなということのを少し思いましたので、そういう切り口もあるのかなと考えております。

あと万博での話で先ほど出ていましたが、万博においてスタートアップは、パビリオンの中での出展というところと、あとは催事の中でのスタートアップのイベントが少しある、というところかと思いますが、外国、海外パビリオンの関係で、各国VIP以外に企業も来ると聞いています。関西経済同友会や各経済団体でも、VIPですとか、それから海外の企業が日本の企業と会いたいという動きのなかで、そのミーティングの設定というのが入ってくると思っています。

例えば、カーボンニュートラルの話でも、オランダというのは非常にカーボンニュートラルの先進国で、ぜひ、関西の企業と何かタッグを組めないかというところで、オランダの総領事からも話があったりしているので、ぜひ関西の大企業とだけではなく、せっかくなので、そういった方がこちらから出向かなくても大阪に来られるので、スタートアップとのミーティング設定を、この万博の会期の間にできると面白いなど。万博の会場内でも、そういったことも今後考えていかれるのも面白いかなと思いました。

あと、最後にユニコーンについてなんですが、私、皆さんの意見と同じで少し思ったのが、このコンソーシアムが、ユニコーンを作るのが目的ではなくて、ユニコーンになるようにスタートアップを応援して支援するのが目的だと思ったときに、一体、コンソーシアムとしてどういった動きをしたらいいのかなと、いうところが考えられるのではないかと考えており

ます。例えば同友会だと、えこひいきのような形で、一あれがいいかどうか、意見があるので、少しどうかな、と思う面もあるのですが、そういった観点で、市長が会って話をしていただけというところだけでも注目度が上がったりするので、そういった局面を積極的に使っていくのが良いのかなと思います。

この後に、また、皆さんお話しされるのかもしれないのですが、今後の動きの中で、一つ私が昨年から思っているところがあります。このコンソーシアムがスタートしてから、事業環境がものすごく変わっています。それというのが生成ＡＩの台頭で、今、本当に、恐らく今後５年以内の間に、いろいろな事業活動の在り方というものが根本からＡＩで変わっていくときに、関西としてそういった動きをしっかりと見据えた、やっぱりスタートアップがどのようにして輩出されていくのかというところの一つ考えられるポイントかなと思いましたので、コメントさせていただきました。

以上です。

○北岡委員長      ありがとうございます。

多分３点、質問をまとめさせていただきます。質の変化ということに対して現状把握をどうされているかということと、MEDTECHだけではなく、いわゆるグラングリーン、中之島、IR、いわゆるQUINTBRIDGE、OIH。この辺りの拠点に対して何か連携なり、構想があるかということ。そして万博の、いわゆる海外VIPの来日に対して何か仕掛けなどがありますかという、この辺の３点に絞って質問を受けたいと思います。回答をお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（田口課長）

まず、スタートアップの質がどんな形に変わってきているかというところですけども、詳細までは把握はしていないところですが、私も１０年前にこちらに勤務しておりまして、そのときからの違いで見ますと、やはり当初はアプリ系とか、そういった会社が多かったかなと思っています。今も確かにサービス系の会社は多いんですけども、ただ、その頃に比べると、いわゆるディープテックといいますか、大学発スタートアップというのが大分増えてきたかなと。調達状況を見てみても、１０年前ですと、数千万円ぐらいの資金調達の企業が多かったんですが、最近ですと、EX-Fusionさんが１８億ですか。そういったすごい大型の投資をしてきているところで、それこそ先ほどから話が出ているユニコーンというか、大きな会社になるような、そういったところが、候補になるところが増えてきたかなという点は感じております。分野としても、やはり多いのはIT系とか、あとはバイオという



か、ライフ系ですかね。その辺りが多いかなというのが特徴かと思っております。

あと、拠点についてですが、また、この後、今後の取組ということでご説明をさせていただこうかなと思っているんですけども、このO I Hも平成25年にできてから10年、大体たっておりますので、当初と比べて、周りの環境が変わってきました。当初は、O I Hと、ナレッジキャピタルぐらいしか、スタートアップを支援するような施設はなかったんですけども、今、お話にあったように、今はQUINTBRIDGEさんとか、隣にJAM BASEができたり、そういったところもできてきましたので、我々はよりイベントだけではなくて、より個社支援といいますか、そういったスタートアップがもっと大きくなるような運用をしていきたいなと思いますので、このO I Hの機能を拡充したいと考えております。なので、O I Hの機能を拡充させつつ、できるところはQUINTBRIDGEさんをはじめ、周りのスタートアップ支援施設にさせていただいて、我々は我々でやることはすると、そんな形で連携して取り組んでいきたいと考えております。

あと、海外のVIPとの連携についてですが、我々も個別で領事館の方とか、そういった方々とも話をさせていただいております、おっしゃるようにこの万博を機に日本にスタートアップを送り込みたいという話などいろいろと聞いております。せっかくの機会なので、また、産業局さんと一緒に相談しながら、何かイベントやプログラムとか、そういったものができれば実施していきたいと思っておりますし、来年なんですけれども9月に、Hack Osaka、これをより大きなものにしていきたいと考えております。そこに万博に来たVIPの方などにもお越しさせていただいて、我々が紹介するスタートアップとのマッチングなどもしていきたいと考えております。

また、何か詳細がありましたら。

○大阪産業局（松出部長） 大阪産業局の松出でございます。

質のところなんですけど、昨年度からプログラムの運営だけではなくて、スタートアップの個別支援にも力を入れさせていただいております。大阪イノベーションハブで支援をさせていただくコーディネーターがおるんですけれども、そのコーディネーターが、それぞれ担当スタートアップを持ちまして、常時、コミュニケーションを取りながらニーズを把握して、サポートさせていただくという体制を取らせていただいておりますので、そういった状況の変化などについても把握できるようなサポート体制を現在取らせていただいております。

質のところと話がずれるかもしれませんが、今、田口様のお話にもございましたように、ディープテック分野のスタートアップの支援というところにも力を入れるようになってきて

おります。それに関しましては、今年度からディープテック支援チームというチームをO I Hの中に立ち上げまして、ディープテック分野に特化して、大学研究者の方から起業された方含めてサポートをさせていただいております。このような活動を通じまして、今後、さらにご支援を手厚くさせていただければなと思っているところでございます。

以上です。

○フォーリー委員      ありがとうございます。

もし可能であれば、質の可視化ということができると、もっとスタートアップの状況が客観的に見えるようになるのかなとは思いますので、ご検討いただいたらどうかと思いました。ありがとうございます。

○北岡委員長      私、個人的には経営者の質が大分変わったかなという気はしてて、大学発ベンチャーだけに限ると、昔は研究室の周りで何とか経営体制を整えようとしていたのが、関東・グローバルから経営者を呼び込める力が出てきて、例えば大阪大学発ベンチャーでも、実はドイツの方が今、経営者で就いて、そのままアメリカで登記した会社が去年ありました。そういった意味でシーズをうまく発信することによって、世界中の経営者がC X Oに就いてもらえるということがあるので、やはり大阪がブランディングというか、発信をしっかりとしていくことで、世界中から経営をやりたい人が集まってくるということが非常に重要で、それは関東から今、関西にも徐々に動きつつあるかなと思います。シーズをいかに見せるかというのが重要で、それが10年前と大きく違っているのかなと思います。

あと、拠点に関しても大阪大学は中之島で、この4月以降、相当強化していこうと考えていますし、大阪公立大学さんが京橋のほうへ来るということもあるので、大学が大阪市内の拠点の活性化に、何十年ぶりですけど、少しでも貢献できるような時期になってきたかなと思いますので、そういった意味では大学もハブになりながら、拠点の連携が進めばいいのかなと思います。あとは先ほど、フォーリーさんの質問で、私がずっと3年前から思っていたのは、VIPが来られたときにスタートアップを見せるだけではなくて、大阪の大学を見学してもらおうということは、僕はありだと思っていて、もともと吹田の万博と、今回の万博を連携してほしいってずっとお願いしていたんですけど、ぜひ大阪大学、大阪公立大学のほか、大阪の色々な大学に、こんな技術が日本にあるよ、ということをうまく連携いただくと、大学も万博に対して参画できるのかなと思っておりますので、その辺り、ぜひ利用いただければ幸いかなと思っています。

○フォーリー委員      大学が拠点になる、それは素晴らしいことだとお伺いして思いました。

あと、万博の理事会に市長も、副会長という立場でいらっしゃったと思いますので、さきほどの大学とか、それからスタートアップと、それから万博に来られた方のVIPについて、今から仕掛けていけばまだ間に合うと思いますので、市長からもぜひ万博の理事会なり、組織のほうに言っていただいたらどうかなと思いました。

○大阪市経済戦略局（田口課長）      ありがとうございます。

○山本委員      すみません。そこであれなんですけど。

○北岡委員長      どうぞ。

○山本委員      まさに時期はそうかなと思ひまして、私もドイツの連邦政府との話や、何月にどうしていかみたいな話は、まさに今行っているような状況でもあるので、海外のVIPとの連携で何ができるかというところをプランするにはとてもよい時期、まさに今かなと思います。大学発のところというのも、海外も、大体スタートアップが強くなっていくところは、大学があつてそこに技術があつて、シーズがあつてというのは、まさにアンカーとして必ずあるような感じではあるので、そこが大阪ブランドというところはおそらく出てくると思うんですけど、大阪ブランドの強いところなのかもしれないと、今いろいろとお話を伺つてて思ひました。

○北岡委員長      ありがとうございます。

私は皆さんの意見を聞いててそうだなとなぜかいたのですが、一点だけ、あえて昨年度のご意見を確認したときに、女性のキャピタリスト、女性の経営者というのが、圧倒的に少ないというのは、今、政府でも課題になってて、今日の会議は4分の2が女性の委員ということで、日本においてはめずらしく正常な委員会と思ひておりまして。去年の12月、アメリカに行ったときに、実は1人、女性の経営者候補を連れて行こうとしたんですけど、用事で行けなくなった。そうすると全員おじさんと男性ばかりということで、やはりシリコンバレーからすると異常な集団が日本からやってきたと見られてしまう。これは、政策的にかなり意識して進めていかないと、なかなか女性の経営者とか、女性のキャピタリストって生まれてこないで、大阪府・市としても、この周辺から大阪というのはそういうことを目指している都市なんだということは、もっとアピールを市長か知事からしていただく、ということは非常に重要なことと思ひていて、我々も大学発ベンチャーで女性経営者比率をどう上げていくかということは、本当に一丁目一番地の課題だと思ひていますので、これは昨年度ご意見いただいた中で、あまり実質的には進んでいないことかなと私は感じていますので、あえて今回もその辺りは述べさせていただければというふうに思ひました。

私からは以上でございます。

では、1つ目の議題に関しましては、フォーリーさんから今後の動きということもいただいておりますので、それを次の2つ目の議題で進めていきたいと思います。1つ目の議題に関しましてはご意見、ご感想をいただきありがとうございます。

では続きまして、議題2の今後の取組についてということで、事務局より説明をいただき、その後、委員の方々からご意見、ご感想をいただきたいと思いますので、事務局からのご説明、よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（栗村課長代理） それでは、栗村より説明させていただきます。

資料13ページからになります。3番、今後の取組ということでございます。

14ページです。3-1. スタートアップ支援施策の中長期的な方向性についてというところになります。2013年にこのOIHが開設されて以来、本市としては、イノベーション創出に関する事業を進めてきたところでございます。これまでの取組について、改めて分析させていただきました。その中でスタートアップの創出に向けた取組を行政が中心に実施してきたということで、このOIHにおいてイベントを行う、イベント等の実施によってイノベーションやスタートアップの創出、そして成長支援や資金獲得に向けた支援等を幅広く実施してきたところでございます。

また、国際イノベーション会議については、イノベーションやスタートアップ創出のきっかけづくりとして世界最先端の情報を共有すること、また、大阪・関西の情報を世界へ発信する場として実施してきたものでございます。そうしたところで、現在、どのように状況が変わってきているのかというところですが、先ほども何点かご指摘がありましたけれども、プレシード期のスタートアップを支援する、民間機関というのがこの10年の間に市内で出てきたというところがございます。また、大学もスタートアップ創出に向けた取組を強化していただいているところです。また、産学官金56団体から成るエコシステムのコンソーシアムが発足してスタートアップの成長を支援する、そういった体制が構築されたところです。

こういったところで、主な目標の達成状況、先ほどと重なるところがありますけれども、数という点ではおおむね目標が達成できているところでございます。ただし、ユニコーンを始めとした、大きくスタートアップを育てるという点で、課題があるのかなというところが見えてきたところです。

そして、当面の課題というところですが、シード、アーリー期については成長支援のビジ

ネスモデルが少なく、どうしても支援が手薄になる部分があるということ、また、大学発スタートアップや万博に出展するスタートアップ等の高い成長が見込まれる分野でのスタートアップへの支援、これを行政としてさらに強化していく必要があるだろうと思っています。また、起業やスタートアップに関心がある若者、学生が増えましたけれども、それが実際に起業していただくための施策ということで、まだまだその担い手が不足しているということもスタートアップの成長に大きな課題であるということ、そして、先ほどもお話がありましたように、国内外の支援主体と、さらなる連携が必要であると考えております。

それで当面の取組の方向性といったしましては、このエコシステムの形成に向けてスタートアップが生まれているけれども、まだまだ成長という点では問題があるその状況を克服するために、民間の支援と行政の支援、それぞれ役割を分担して、より産学官金が一体となって支援の充実を図って、そのスタートアップの企業価値、企業規模ということを拡大につなげていきたいと考えております。

主な取組としては、主に大きく3つ挙げさせていただいております。先ほど官民の役割分担というところですが、メリハリのあるスタートアップ支援ということで、これまで10年間、非常に幅広にやってきましたけれども、支援が手薄なシード期からアーリー期の成長段階にあるスタートアップであるとか、大学発スタートアップや万博出展スタートアップ等について、行政が注力して支援して、それを民間の支援につなげていくということで、スタートアップ成長の好循環を生み出していきたいと考えています。

また、新たなスタートアップの担い手の創出や国内外の支援ネットワークの強化ということで、まず、若い人の新たなプレーヤーの創出や獲得を行うこと、それとともに支援ネットワークとして国内の様々なスタートアップの支援主体との連携強化であったり、また、様々なネットワークを生かした海外の支援機関との連携を一層強化したりしていき、スタートアップのエコシステムの強化・拡大を図っていきたいと考えております。

3番目は「大阪ブランド」の確立ということで、情報発信の部分が強くなってきますけれども、いろいろな機会を活用して、大阪のスタートアップ支援や、また、イチオシのスタートアップを国内外に発信することで、大阪のブランドを確立して、世界中からそういった人・モノ・投資等呼び込むことでエコシステムの成長を加速させていきたいと考えております。これらの施策を通して、一番上に書かせていただいておりますけれども、スタートアップが次々と生まれ、大きく育つエコシステムをつくって、大阪経済の活性を図ってまいりたいということで方向性に書かせていただいております。

具体的にどういったことをするのかという点について、15ページになります。O I Hの機能の見直しということで、民間施設との支援が十分に行き届いていない領域、特にシード期、アーリー期への対応も含めて、スタートアップ企業の支援を強化するために面積を拡大したり、利用しやすい施設のレイアウトへの変更、また、施設利用の運用について見直しを行ったりすることを今、検討しております。

右側に今のO I Hの図面が書かれています。こちらにもイベントスペースであったり、ミーティングスペースであったり、交流共創スペースというものはあるんですけども、例えばイベントを開催しているときにはミーティングが行いにくい状況であったり、また、交流共創スペースをより生かしていくためには、イベントがあった状態でも交流ができるような、さらなるスペースが必要と考えております。想定イメージのほうに書かせていただいておりますけれども、個別面談ブースであったり、また、交流共創スペースの拡大、来館者とのコミュニケーションが促されるような施設の運用等について検討していきたいと考えております。

続きまして、16ページになります。万博に関連したスタートアップ関係の取組でございます。先ほどからも万博を活用した、そういった支援が大切ではないかご意見をいただいておりますけれども、そのうちの1点目として、新たなグローバルスタートアップイベントの開催を検討しております。今までのH a c k O s a k aを拡充したものということになります。万博を契機にスタートアップ企業が成長するきっかけづくりを行うために、国が主催となり、万博会場において開催される「G l o b a l S t a r t u p E X P O 2 0 2 5」というイベントがございまして、こちらのイベントと連携して成長を求める国内外のスタートアップ企業や新たな事業展開・投資を検討している投資家等の双方が実利を得ることができる商談会、マッチングに軸足を置いたイベントを開催していきたいと考えております。2025年度取組内容ということですが、このような商談会、ピッチ・展示会などを核としたイベントを行っていくということで、万博を活用した大きなグローバルイベントを実施していきたいと考えております。

そして、投資等を検討している投資家等を対象として、国内最大規模の商談イベントとして、スタートアップ企業の成長の促進につなげてまいりたいと考えております。

2点目ですけれども、先ほど、これまでの取組でも出てきましたが、カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業がございます。2022年度からこの事業を始めておりますが、いよいよ、一つの区切りとなります万博が、今年開催されるということで、この万博に出展される企業にとって、より効果的なP Rの場になるように、来年度についても引き続

き会場における展示についてのブラッシュアップ等を進めるとともに、万博出展後のフォローとして、万博会場以外におけるPR機会の創出や、引き続き、ビジネス化、事業化に向けた支援を展開していき、このカーボンニュートラル等の技術が事業化促進されるような取組を行ってまいりたいと考えております。

参考になりますけれども、18ページに大阪ヘルスケアパビリオンのリボーンチャレンジについて記載させていただいております。こちらでも数多くのスタートアップが展示する予定となっております。これは展示の企画例になってはいますが、6月24日から6月30日には、ヘルスケアに重点を置いたもの、月1日から7月7日についてはカーボンニュートラルに焦点を合わせたもの、そういった展示もなされることになっております。このように万博で出展していただいて、国内外へ広く発信して、事業化の一助にさせていただきたいと考えております。

以上が、今後、令和7年度の取組ということで、ご説明を終わらせていただきます。

○北岡委員長     ありがとうございました。

では、先ほどのところの続きにもなりますが、委員の方々から、今のご説明に対しましてご意見、ご感想などいただければと思いますが、いかがでしょうか。

まず、山本委員から行きましょうか。

○山本委員     すみません。ありがとうございます。

いろいろな取組の中でサジェスションというか、こういうのもいかがかなと思ったところ、2点申し上げられればと思います。

いろいろな支援とか、ネットワークというのを拡大していくということと、Global Startup EXPOを行うというところで、一つ、例えばSusHi Techさんみたいなところが、いろいろな海外とのネットワークを築いていくときにすごく行われていたのが、海外のスタートアップのイベントに出展する、ということはもちろんあると思うんですけれども、そのイベント自体に何人か派遣されていて、個人的にいろいろな支援機関とネットワークを強く作っていくということを行われていました。

例えば、オランダもそうですし、ドイツもそうですし、フランスもそうですけれども、大体現地のJETROみたいな方がオーガナイズされたパビリオンのようなものがあり、そういったところに出ていらっしゃるのですが、何回もいろいろなイベントに行くと同じ人に会って、業界の仲間だという感じの認識というか、リレーションシップ等が生まれてくるので、そうなっていくと個人的に、これやるんだけど来てくれない？と言ったら、じゃあ、それは

しっかり考えていきたいと思いますというような形になっていくので、やはり、ビジネスというか、スタートアップ系もそうですし、大きなビジネスもそうだと思うのですが、実際、実行力がある方たちが個人的につながっている感覚というものは、その次のアクションに落ちるスピード感が全然違うので、英語で資料を送るだけ、ということとは、また、全然違った求心力が出てくると思いますので、ぜひ、そういう予算もあるとよいのではないのかなというのの一つあります。あともう一つは、カーボンニュートラルのところで、いろいろなスタートアップであったり、企業であったりが集まるということであれば、海外のVCも、カーボンニュートラルの分野は非常に注目している方たちがたくさんいて、色々な大きなお金も動いているところであるので、可能であれば、そのカーボンニュートラルVCサミットのようなものを同時に行って、海外のVCたちとか、大きいところを呼び込んできて、そこでカーボンニュートラルに特化したVCのサミットを行い、日本の推すべきスタートアップさんであったり、企業とつなげていくというのも、内外に対してVC業界の中でも話題になるような感じになると思いますので、良いのではないかなと思いました。

○北岡委員長　何かありますか、コメント。

○大阪市経済戦略局（田口課長）　ありがとうございます。

我々もイベントを当然大きくしていきたいし、海外からいろいろな人を呼んでいきたいと思っております。まだまだ大阪の知名度は低いというところもありますので、やはり海外の、それこそアメリカや、フランスや、ドイツなど、いろいろな国の大きなイベントに行って、スタートアップを連れてくるのもそうですし、我々自身も行って、ネットワークを作るのはすごい大事なことだと思いますので、非常に参考になります。ありがとうございます。

あと、カーボンニュートラルの件ですが、我々も悩んでるところが、どうしても様々な分野のものを集めたものがないかなと思ってしまいうんですけども、おっしゃるように、分野を特化したりするほうが、特に海外の投資家さんというのは、来られやすいのでしょうか。そういうことも考えていかないといけないかなと思いました。ありがとうございます。

○北岡委員長　ありがとうございました。

フォーリーさん、お願いします。

○フォーリー委員

これを申し上げて、逆に理解をさせていただきたいんですけど、14ページ目に「大阪ブランドの確立」というのがあって、これ大阪ブランドなのかなって、実は私、思いまして、このエコシステムの拠点都市についても京阪神で、今回、認定を受けていることと、あとは、



もちろん大阪はスタートアップに対してものすごく支援しているということを見せていかなければならないものの、発信の仕方によっては大阪だけという、非常に狭くて、さきほどからグローバルに行こうって言っているときに、大阪ブランドというとなんとなく、ローカル色が非常に強い気がどうしてもしてしまいますので、おそらく、言いたいことは大阪のポジショニングをスタートアップ支援の世界の中で確固たるものにしようということだと思うのですが、何かもう少し良いキャッチコピーがないのかなと思いました。とということが一点と、O I Hをいろいろと機能拡充されるということはすごく良いと思うのですが、予算の関係もあると思いますが、格好よくしませんか、という。O I Hに来て、大阪の雰囲気があって、お笑いだけではなくて格好いいなみたいな、何かそういう感じになると行きたいと思うので、そういうことを考えていただければと思いました。

すみません。以上です。

○北岡委員長      ありがとうございます。

これは多分、I V S   K Y O T Oの例を挙げると、実際、世界中から京都に集まっている様々な方々が集まる機会でもあったりしていて、やはり京都って集まりやすい場所だと思うんですね。それで継続的に京都はI V Sを、また来年度も、と言っているのですが、あまりそこで対抗して大阪も、ということは、フォーリーさんが言うようにあまり出さないほうが良いと思っていました、私自身は、この梅田という場所は、神戸と京都のハブになれるすごくいいところで、今、実際、神戸も大阪を向いてきているし、実質的に京都も実は大阪を向いている、というところも、実は大学等ではあるし、地銀は少なくとも京都も、滋賀も、和歌山も、奈良も大阪を見ている、ということが実はあるのですよね。だから、フォーリーさんが言うように、大阪ブランドって変にして反発を買うことなく、むしろ何か、もう一步引いて関西全体が、もっと言うと日本全体が発展できるようなキーワードを、万博と兼ねてできることを僕も望んでいるし、それが結果的には金融機関や地方銀行が一体化して、マネーを呼び込めるところになるので、大阪ブランド、というフレーズは私も気に入ったので、フォーリー委員のおっしゃるとおりかなと思いましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

岡委員、お願いします。

○岡委員      ありがとうございます。

スタートアップ支援の中長期的な内容については、これで良いと思いますし、どんどん実現してもらいたいなと思いました。

あと、O I Hの機能見直しについても、もう10年以上経ちますし、真ん中の柱は、何とかならないか、ということもあるのですが、内装的には、どこの施設もおしゃれなので、フォーリー委員が言うように、もう少し格好よくできたらなと思いました。

あと、万博に関してもいろいろと、これから本格的にされると思いますので期待はしております。

あと、僕自身、東京と名古屋、京都、北海道、沖縄もそうですがあちこちでいろいろな活動をしている中で、大阪のこのスタートアップ支援、何が足りないのかというと、3つ感じておりまして、1つは大阪でシードのスタートアップの母数がすごく増えていると思うんですが、それに合わせて、いわゆるメンターですね。メンターが少なくて育成もあまりできていないように見えるので、そこがすごく今後の大きな課題かなとは感じています。もちろん支援策とか、施設とか、そういったいろいろなものはたくさん大阪にあるのですが、肝心のメンターが少ないという点がまず一つと、あとは資金です。誰かがさきほど言っていたけど、シードのファンドの資金が極端に少ないのでエンジェルも、投資家も今ほとんどいません。何とか流れを変えないとまずいかなと。3つ目が大企業との連携でM&Aがすごく少ないと感じておりまして、また、資本提携も少ないように感じていて、これも感覚的なものなので、もしできれば、東京と大阪の比較でもいいし、M&Aの案件のディールの額とか、資本提携した場合に、どのぐらいの資金を提供しているとか、その辺りの比較できるデータを作れるようであれば、何かそれに対してアイデアや対策が打てるのではないかなと。かなり深い話になってくるんですけど、大阪の支援というのは全国的にもトップクラスだと思いますので、次は支援も大事なのですが、今言ったようなことも、やはりすごく大事になると思うので、こちら行政の力でできることがあれば、ぜひ行ってもらいたいなと感じております。

以上です。

○北岡委員長 田口さん、何かありますか。

○大阪市経済戦略局（田口課長） 皆様、ありがとうございます。

正直、我々もやらないといけないことがたくさんあって、日々いろいろ進めているところなんですけども、今日いただいた意見を、また参考に進めていきたいと思っております。

特に、今日いろいろとアドバイスをいただきましたけども、万博という、なかなかないイベントがありますので、これは絶対に生かしたいなということと、あと、もっと市長に前に出てもらって、スタートアップの皆様方のサポートといいますか、バックアップといいます

か、そういったことをやっていかないといけないと思っています。あと、O I Hも、10年ぶりに変わるということなので、ぜひ、委員の皆さんにもO I Hに行きたいと思っていただけるような場所に変えていきたいなと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。

以上です。

○北岡委員長　　最後、私のほうから。

実は、皆さんがあまり見えてないかもしれないのですが、関西って意外と大学間の連携が強くて、マスコミが阪大と、京大と、神戸大はけんかしているってよく言うのですが、実は市と府がけんかしてるだけで、実は大学はものすごいネットワークが強いんですよね。また、例えば金融機関も先ほど言いましたように、実は関東では大手4行、メガバンクはほぼ東京では連携できてないのですが、関西ではほぼ連携できていますし、地銀のネットワークもすごい強化しています。

実は、そういったことは大阪だけではなくて、名古屋でもありますし、地方のほうは実はできているんですね。それに気づいていない自治体の連携が不足している、というのが実態かなと、私は感じてます。そういった意味では先ほどフォーリーさんが言われた大阪ブランドってあえて言わなくても、それを実際、動かすことができます。そのときに、ぜひ見える化するためにはやっぱりそのトップが見えたほうがいいと思うんですよね。そういった意味では横山市長や、吉村知事のように、そういう人が、出来上がっているネットワークをうまく活用して広報的に出してもらおう。万博のこの半年間で、もしネットワークができて一つのブランドが確立されれば、10月以降、新たなそういうスタートが切れるのかなというのがすごく期待してる場所ですので、ぜひ、今できている既存のネットワークを見える化するという意味で、トップの方を動かすということをぜひ、大阪府・市さんにしていただけると、今日、委員の方々からいろいろアドバイスいただいたことも実現が近いのかなと期待しておりますので、よろしくお願いしますなと思っております。

何か、最後に言い忘れたことはございますか。大丈夫ですか。

では、本日、いろいろ意見をいただき、ありがとうございました。本日出ました意見については、また、来年度の活動に反映いただけるものということもありますし、4月から始まる万博ですね、本当に楽しみです。皆さん、それに対しては盛り上げていきたいなと思っております。

それでは、本日の評議会は以上で終了になりますので、この後、連絡事項について事務局からお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○大阪市経済戦略局（米倉部長）      ありがとうございます。

連絡事項ということではありませんけれども、最後にご挨拶をさせていただければと思います。

本日、非常に限られた時間でございますけれども、様々なご意見、本当に貴重なご意見を賜りまして、本当にありがとうございます。大阪市、それから大阪産業局、それぞれの立場からの説明もさせていただいたところですが、皆様からいただいたいろいろな課題、問題意識なども共有できましたし、それから具体的なアイデアもいただきました。説明の中でもありましたけれども、拠点都市の取組もまた、新たなものが始まろうとしておりますので、国や、大阪府、それから、大阪だけに縛られずにとということです、京都、兵庫、神戸とも、また、広く言うと関西全体かもしれませんけれども、いろいろなところとしっかり連携して取組を進めてまいりたいと思います。

北岡先生からもご案内がありましたように、万博ですね。4月にいよいよ万博が開幕となります。私ども大阪市でも、この間いろいろな施策、事業について、「万博」というものをターゲットにいろいろ検討して取組も進めてまいりました。スタートアップに関しましてもリボンチャレンジですとか、いろんな活躍の成長に資するような場も提供されているところなんですけれども、万博だけで終わるのではなくて、その万博が終わった後のいろいろなフォローアップなど、そういったところも非常にレガシーということで大事だと思っております。万博を契機に活躍するスタートアップの成長支援、O I Hの機能拡充も進めてまいります。グローバルスタートアップイベント、こちらも大きくさま変わりして行っていきたいと思っておりますので、この辺り、しっかり我々も進めていきたいと思っております。

また、こういった場でフィードバックもさせていただいてご意見も頂戴するという形で、今後も展開してまいりまして、施策の充実、それから大阪のエコシステム、京阪神のエコシステム、一層の充実につなげてまいりたいと思っております。

引き続きのご指導、ご支援のほどよろしくお願いしたいと思います。

本日は誠にありがとうございます。

○大阪市経済戦略局（田口課長）      そうしましたら、本日は以上となります。ありがとうございます。

閉会    午後5時37分